

## 引用文献

- 平野幸彦, 2007. 日本産チビヒラタムシ科について. 神奈川虫報, (160): 15-33.
- 平野幸彦, 2009a. 八丈島のチビヒラタムシ科. 神奈川虫報, (167): 10.
- 平野幸彦, 2009b. 日本産ヒラタムシ上科図説 第1巻ヒメキノコムシ科・ネスイムシ科・チビヒラタムシ科. 63pp. 六本脚.
- 平野幸彦・上田康之・渡 弘・吉田篤人, 1993. 伊豆新島産甲虫類採集報告. 神奈川虫報, (104): 1-12.
- 川畑喜照, 2009. 伊豆諸島八丈島の甲虫V. 神奈川虫報, (168): 21-30.
- 佐々治寛之, 1985. ヒラタムシ科. 黒澤良彦, 久松定成, 佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑 (III), pp. 199-202, pl. 32, 保育社.
- 佐々治寛之, 1987. 八丈島産ヒラタムシ上科甲虫数種の記録. 月刊むし, (198): 42.
- 沢田玄正・渡辺泰明, 1959. 八丈小島の昆虫相. 東京農業大学農学集報, 5(2): 47-63.
- 澤田玄正・渡辺泰明, 1969. 御蔵島の昆虫相. 東京農業大学農学集報, 14(1): 1-48.
- 田中 稔, 2013. チビヒラタムシ科4種の分布. 月刊むし, (509): 45-46.
- 上田康之・高橋鉄也・露木繁雄・吉田篤人・渡 弘, 1994. 神奈川有志による八丈島甲虫採集会報告. 神奈川虫報, (108): 1-14.
- 渡辺泰明・相馬田彦, 1972. 三宅島の昆虫相. 東京農業大学農学集報, 17(1): 1-58.

(2015年11月6日受領, 2015年12月5日受理)

### 【短報】ムナビロアトボシアオゴミムシ北関東と佐渡の記録

ムナビロアトボシアオゴミムシ *Chlaenius tetragonoderus* Chaudoir, 1876 は日本では本州・四国・九州・南西諸島に分布し, 南方では個体数が多い. 関東地方では房総半島, 伊豆御蔵島などで記録がある (奥村, 1968). 筆者も房総半島, 伊豆諸島の新島, 神津島で採集しているが, 今回北関東の栃木・群馬県境で採集したので報告する. 両県ともこれまで記録はなかったものである. 本種はほぼ海岸沿いに分布している (奥村, 1968) とのことであるが, 地球温暖化に伴い分布を拡大させていることも考えられる.

2♀, 2~5. IX. 2015, 栃木県足利市小俣町白葉峠 (標高 270 m) (図1).

1♀, 2~5. IX. 2015, 群馬県桐生市菱町白葉峠 (標高 220 m), いずれも須田亨採集.

いずれの採集地でも, 落葉広葉樹林の斜面に設置した紫外線 LED ライト付きの FIT に落ちたものである.

また, 手持ちの標本を調べていたところ, 新潟県佐渡市 (当時の両津市) で採集した個体を確認したので合わせて報告す

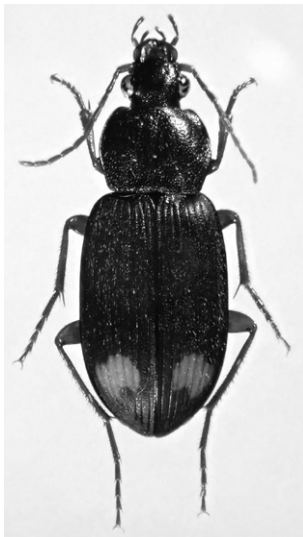


図1. ムナビロアトボシアオゴミムシ (♀).

る. なお, 新潟県ではすでに黒川から記録されている (奥村, 1968; 土生・馬場, 1972).

1♂, 24-25. IX. 1989, 新潟県両津市 (標高 150 m), 須田亨採集.

これはベイトトラップにより採集したもので, テネラル個体である.

本種の頭部と前胸背板は緑色の光沢を持つが, 各地の標本を改めて比較してみると, 奄美大島産の個体群が特に青みの強い緑色であることが判明した. 森田誠司氏からの私信では, 同島に加えて鹿児島県甑島列島の個体群も同様とのことであった. また, 九州の他産地の個体がそれに次いで青みが強かった一方で, 西表島産の多くは暗い銅色を帯びていた. しかし他の多くの個体について見ると, 産地による明確な差異は認められなかった. 今回は標本数が少ないので傾向などはわからないが, 栃木県産の1頭は銅色を帯びた緑色, 他の1頭と群馬県産は平均的な緑色, 佐渡産は九州産と同程度の美しい緑色であった.

最後に, 発表にあたりいろいろとご教示をいただいた森田誠司氏に厚くお礼申し上げます.

## 引用文献

- 土生和申・馬場金太郎, 1972. 新潟県の歩行虫科 (オサムシ族を除く). 越後昆虫同好会会報, 4(1): 1-61
- 奥村 尚, 1968. 三浦半島のムナビロアトボシアオゴミムシの記録. 甲虫ニュース, (1): 3.

(須田 亨 372-0006 伊勢崎市太田町 770-4)